

序 文

(独)水産総合研究センター中央水産研究所は、水産物の安定供給の確保や水産業の健全な発展へ貢献することを目指している「水産総合研究センター」傘下の研究所の一つであり、他の研究所の共通基盤的研究を担う研究所として、経営経済、水産資源管理、海洋・生態系、水産物応用開発（利用加工）、水産遺伝子解析の分野の研究を推進しています。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災からの復興、再生に係わる研究開発にも、水産総合研究センターの他の研究所や地域研究機関及び漁業者の皆様と連携して取り組んでおります。



このような研究及び取り組みで得た成果は、通常は論文、報告書あるいは学会・シンポジウム等を通して公表しておりますが、こうした公表ルートではその内容がなかなか一般の方々の目に触れません。そこで、専門家以外の方々にも研究開発の成果を知っていただくことを目的として、成果の内容を解りやすく解説したのがこの「研究のうごき」です。平成15年度に創刊し、今号は第11号になります。

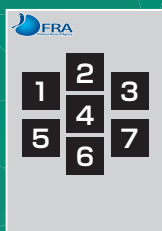
この「研究のうごき」は当所の研究職員の主要な研究課題について、研究開発の背景と目的、得られた成果及びその波及効果を1ページ内にとりまとめ、冊子として編集したものです。これは研究論文とは異なり、すぐに理解していただくことを目指して作成した成果集です。

水産総合研究センターは、運営交付金を始めとする公的資金に大きく依存していますので、納税者である一般の方々に研究成果を理解していただき、ご意見をいただくことは本質的に重要なことです。したがって、「研究のうごき」を読まれ、何らかの感想を持たれた方は是非所員にお知らせいただきたいと思います。また、当所のホームページ (<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>) にはバックナンバーも掲載されていますので、本冊子に興味を持たれた方々はご一読いただければ幸いです。

さらに、研究所では一般公開（平成25年は10月12日（土））やサイエンスステージ（平成25年は10月6日に横浜・八景島シーパラダイス）などのイベントも毎年開催しますので、そのような場にお越しくださり所員と直接意見していただけると大変ありがたく思います。

平成25年9月

独立行政法人 水産総合研究センター
中央水産研究所 所長 時村 宗春



表紙写真(提供)：1. ヤマトシジミ(村田裕子)；2. 水揚げされたシラス(市川忠史)；3. ヒトデ(金庭正樹)；4. 新型稚魚採集ネット(本文参照)；5. スケトウダラ(田中寛繁 北水研)；6. トラフグ(鈴木重則 増養殖研)；7. 秋サケの水揚げ(清水幾太郎)